幕末の改革者
山田方谷に学ぶ改革成功の鍵
～地方から世界を変える～

「ほうこくん」
©2013 高梁市中井地域まちづくり方谷の里

山田方谷六代孫
野島　透
2014. 12. 7

【内容】

❶ なぜ今、方谷なのか
❷ 山田方谷とは？
❸改革の理念（夢）
❹七大改革（政策）
❺改革成功の鍵
❻江戸幕府の政治顧問
❼教育・人材育成
❽山田方谷とは日本版「陽明学」～誠意中心主義～
❾ 現代に生きる方谷の理念（夢）
❿ 地方から世界を変える

❶なぜ今、方谷なのか

理念、大志（夢）

教育

日本の活性化

❷山田方谷とは？

1805年（文化2年）～1877年（明治10年）

江戸時代末期、大きな借金に苦しんでいた備中松山藩（岡山県高梁市周辺）において、新産業政策・藩札刷新政策などの七大政策により財政改革を成功させた財政改革者で陽明学者。

その成功などで、藩主板倉勝静(松平定信の孫)は、徳川慶喜第15代将軍の筆頭老中となった。

最近の研究では、筆頭老中の板倉勝静の命を受けた方谷が「大政奉還」上奏文の原案を起草したという説もある。

また方谷は、教育者としても知られ、岡山県の閑谷学校(国宝)を再興している。その弟子には、二松學舎大学の創立者の三島中洲、河井継之助などがいる。

❸改革の理念（夢）

理念（夢）

- 「士民撫育（すべては国民のため）」
- 「領民（国民）を富ませることが国を富ませ、活力を生む」

心構え

- 「至誠惻怛（真心といたみ悲しむ心）」
- 「事の外に立ちて事の内に屈せず」（理財論上）
- 「義を明らかにして利を図らず」（理財論下）

❹ 七大改革 ～ 備中松山藩の財政収支（1849年）～

収入				支出	
項目		金額（両）	公債依存度（%）	項目	金額（両）
定期収入（①）	年貢米	22,000	71.0 (29.0)	江戸表・松山役所費	14,000
特別収入（②）	産物・銅・鉄利益金	10,000		家中扶持米	8,000
	山林その他利益金	1,800		借金利息	13,000
	小物成諸運上金	1,000		役用金	13,000
小計		12,800	(16.9)	武備一切金	10,000
定期収入・特別収入計（①+②）		34,800	54.1 (45.9)	異国船武備築時金	5,000
				救米・荒地引米等	3,200
				道中往来費用	3,000
臨時収入（③）	献納・別納米	4,000		その他費用	6,600
	御加増1万石米	4,000			
	小計	8,000	(10.6)		
総収入	総計 (①+②+③)	42,800	43.5 (56.5)	計	75,800
財政赤字（収支不足）		33,000			

※公債依存度は、総支出（75,800両）に占める公債（赤字）比率。（ ）書きは総支出（75,800両）に占める当該収入比率。

＜借金＞

項目	金額（両）
改革前借金	100,000

※この表は「方谷全集」第２冊をもとに「岡山　山田方谷に学ぶ会」が作成し、それに加筆修正を加えたもの。

④ 七大改革（政策）

政　策	具　体　策
1 産業振興	①新しい時代の潮流に乗った産業政策 ②有効な公共投資 ③鉄製品等特産品の育成 ④藩の事業部門新設（専売事業の推進） ⑤船（快風丸等）を使い江戸に直送　（注１）
2 負債整理	①緻密な返済計画策定・実行 ②大阪商人への借金返済延期願い ③大阪蔵屋敷の廃止
3 藩札刷新	①信用のなくなった旧藩札焼却、新藩札発行
4 上下節約	①藩士の穀禄を減ずる　②役人への饗応禁止　③贈答の禁止
5 民政刷新改革	①凶作に備え領内４０箇所に貯倉設置　②賄賂を戒め、賭博禁止　③目安箱の設置
6 教育改革	①学問所、教諭所、寺子屋、家塾など７５箇所
7 軍制改革	①近代的な銃陣、新式砲術の採用　②農兵の組織化（里正隊）　（注２）

（注1）新島襄も快風丸に乗って函館まで行った。
（注2）久坂玄瑞が視察した1858年の6年後に高杉晋作が奇兵隊を組織した。

⑤ 改革成功の鍵

1. 正確な現状分析
2. 情報公開による透明性の確保
3. 領民（国民）に改革の利益（豊かさ）を還元
4. 地域の実情に基づく政策
5. 現場主義
6. 内外に上手く宣伝
7. 積極的な情報収集
8. 改革支援者の育成と人材登用
9. 率先垂範
10. 従来の成功体験の捨象

⑥ 江戸幕府の政治顧問

1.安政の大獄

（エピソード）久坂玄瑞から頼まれて、方谷は吉田松陰の遺骨を遺族に渡すために尽力。

2.桜田門外の変

3.文久の改革

4.大政奉還

⑦ 教育・人材育成

1　閑谷学校の再興

2　郷学の再興（明親館、知本館、温知館等）

3　方谷の弟子たち

- 三島　中洲　　大正天皇の侍講、二松学舎大学創立者（犬養毅・夏目漱石らを輩出）
  第八十六銀行（現中国銀行）の発起人
- 川田　剛　宮中顧問、明治三大文宗の一人、新島襄の師、川田順の父
- 神戸　謙次郎　第八十六銀行（現中国銀行）頭取
- 進　鴻渓有終館（藩校）学頭
- 河井　継之助　小説『峠』（司馬遼太郎）の主人公
- 熊田　恰　　倉敷市玉島地区を救う

⑦ 教育・人材育成

3 方谷の弟子たち（続き）

- 団藤　善平　　団藤重光（最高裁判事）の祖父
- 井手　毛三　　衆議院議員、自由民権運動を推進
- 岡本　巍（たかし）　方谷の死後、閑谷学校を再び開校し後に校長となる
- 中川　横太郎　　実業家 岡山医学校（岡山大学医学部）、岡山薬学校（現 関西高校）の設立に尽力
- 福西　志計子　　順正女学校（岡山初の女学校、現 高梁高校）の創立者
  留岡幸助（東京・巣鴨に家庭学校を設立するなど感化事業の先駆者）
  山室軍平（日本の救世軍の最高責任者）、
  石井十次（岡山孤児院の設立等 児童福祉の父）等の
  福祉関係に多大な影響を与えた。
- 原田　一道　　陸軍少将、貴族院議員、孫は男爵原田熊雄（近衛文麿の秘書、元駐英大使）
  吉田茂などと共に終戦に向けた工作を計画するが頓挫する。

⑧日本版「陽明学」～誠意中心主義～

1.儒学の原典 「四書五経」

四書:「論語」「大学」「中庸」「孟子」
五経:「易経」「詩経」「書経」「礼記」「春秋」

2.大学

「古の明徳を明らかにせんと欲せし者は、まずその国を治めたり。
その国を治めんと欲せし者は、まずその家を斉えたり。
その家を斉えんと欲せし者は、まずその身を治めたり。
その身を治めんと欲せし者は、まずその心を正しくせり。
その心を正しくせんと欲せし者は、まずその意を誠にせり。
その意を誠にせんと欲せし者は、まずその知を致す。
知を致すは、**格物**にありき。」

⑧日本版「陽明学」～誠意中心主義～

3.格物の解釈

朱子学では、「物にいたる」と読ませ、「格物」は「物」の本質に至ることであり、
一生懸命勉強して、初めて知に至ると解釈する。

陽明学では、「格物」を「物をただす」と読ませ、
「曲がったものを真っ直ぐにする」と解釈する。

4.陽明学

- 「心即理」
- 「到良知」
- 「知行合一」
- 「事上磨練」

⑧日本版「陽明学」～誠意中心主義～

5.方谷の陽明学　～誠意中心主義～

「方谷は、致良知、格物、誠意という三項目を陽明学の眼目として
取り上げている。
　そして、その中で、誠意を中心に据える。
致良知と格物とが、本の柱となって誠意を支えている。
　良知を致すことによって、誠意の本体を確認し、格物の実践によって、
誠意が実践のものとなるのである。
　何事を成すにも誠意を中心とするのが、方谷の信条となっている。」

（山田琢 元金沢大学名誉教授）

⑧日本版「陽明学」～誠意中心主義～

6.陽明学に影響を受けた人々

＜江戸初・中期＞・中江藤樹
・熊沢蕃山

＜江戸後期＞・佐藤一斎
・山田方谷 － 三島中洲・河井継之助
・佐久間象山 － 吉田松陰 － 久坂玄瑞・高杉晋作
・春日潜庵 － 西郷隆盛(大久保利通)
・横井小楠 － 坂本龍馬
・大塩平八郎

＜昭和＞・山田済斎(準)
・安岡正篤

⑨現代に生きる方谷の理念（夢）

1 方谷の思想は三島中洲を経て
渋沢栄一の「論語とソロバン」へ

2 方谷の理念・手法で自治体の改革、
会社の拡大・発展へ

⑩地方から世界を変える

1　日本の活性化

2　教育（人材育成）

3　世界に発信

（注）大河ドラマ化へ向けての運動

人は夢を持つことが肝腎なり。
されども夢を実現せんとすれば、
先ず自ら努力することを忘れるべからず。
唯、必ず夢は叶うと信じるのみ。

（出典：「小説 山田方谷の夢」）
野島　透著　明徳出版社

真庭市「醍醐桜」

1851(嘉永4)年4月
藩財政についての上申書
(士民撫育についての考え方)

参考資料1

「藩国の御天職は、恐れながら御家中の諸士並びに百姓・町人共を御撫育遊ばされ候にこれ有る御事と存じ奉り候。
其の御撫育の方は限り無き事に御座候え共、先ず差し当り御急務と申すべきは
御家中は御借り上げ米を御もどし下され候にこれ有り
百姓は課役を減じ、難渋村を御取り立て下され、町人は金銭融通付け
交易を盛んに成し下され候儀と存じ奉り候」

「理財論上」

参考資料2

(略)総じて善く天下の事を制する者は、事の外に立って事の内に屈しないものだ。
しかるに当今の理財の当事者は悉く財の内に屈している。
(略)ただ理財の末端に走り、金銭の増減にのみこだわっている。
これは財の内に屈しているものである。(略)そこで当代の名君と賢臣とが思いを
ここにめぐらして、超然として財の外に立ち、財の内に屈せず、金銭の出納収支は
これを係りの役人に委任し、ただその大綱を掌握管理するにとどめる。
そして財の外に識見を立て、道義を明らかにして人心を正し、習俗の浮華を除き
風気を敦厚にし、賄賂を禁じて官吏を清廉にし、民政に努めて民物を豊かにし、
正道を尊重して文教を振興し、士気を振い武備を張るならば、
政道はここに整備し政令はここに明確になる。かくて経国の大道は治まらざることなく、
理財の方途もまた従って通じる。(略)

「理財論下」

参考資料3

(略)義と利と区別をつけるのが重要なことです。
政道を整備して政令を明確にするのは義のことです。

飢餓と死亡とを免れ　ようとするのは利のことです。
君子は義を明かにして利を計らないものです。

(略)義と利との区別が一たび明らかになれば、守るべき道が　定まります。
(略)利は義の和といいます。政道が整備し政令が明確になる
ならば、飢餓と死亡とは免れないことはありません。(略)